

生涯学習におけるダンス

—日英米3国比較—

福島大学 鈴木裕美子

1. はじめに

イギリスやアメリカにおける成人教育の制度は、キャリアアップを目的として定着し、学校、文化施設、コミュニティセンター等、身近な施設で質の高い教育を提供している。また、オープンハウスのシステムも充実し、インターネットや雑誌などで情報が公開され、問い合わせや訪問は歓迎される。ダンスに関しても、イヴニングクラスやサマースクール等で、コレオグラフィー、コンテンポラリーダンスやバレエ、民族舞踊等、さまざまなジャンルの舞踊が開講されている。また、施設を利用して自主的に立ち上げ、新聞や口コミで募集し軌道にのっているサークルもある。日本では自治体主導型が多く、地域格差があり、一般住民の要求に応じたプログラムが公共施設や、民間施設で多彩に展開されているとは限らない。

そこで、ダンス学習の場が、学校、スポーツクラブやスタジオなどで活発に展開されているイギリスやアメリカの例を参考に、生涯学習におけるダンスのあり方を考察した。

2. 研究期間 2003年3月～9月

3. 研究方法

受講 (A, B, C)

見学 (D, E, F, G)

カリキュラムの調査 (H, I)

インタビュー

4. 結果と考察

<各国の事例>

(1)イギリス (ロンドン)

情報は hotcourses や Floodlight などの雑誌や新聞の生徒募集欄に掲載されている。1992年にポリテクニックが大学の資格を与えられ、イギリスの大学は100校あまりに増えた。大学のイヴニングクラスのプログラムは、一般市民、幼児、障害者対象などバラエティに富み、広く門戸を開放している。また、サマースクールは、2, 3, 4週間と短く、入学条件も比較的緩やかなため気軽に参加できる。他に、大学側に特別プログラムとして学位取得を目的としない聴講生 (Occasional Student, Visiting Student) として履修する方法もある。

・ A

Evening class 4月～7月10回コース £50

Summer school 7月 2週間 £450

・ B フラメンコ教室

Community centreにて複数の教室を開講。

週1回 1回 £10, 6回コース £45

練習場所と講師の手配をして愛好者を募集し、練習や発表会を行っている。

・ C Sports club

エアロビクスダンス 1回 £10

フィットネス15回 £53.3 プライベート £25.9

・ D サルサ教室

1回 £6 レストランの一室で開講

(2)アメリカ (ニューヨーク)

さまざまなダンスがレベルに応じて受講できる。外国人に対して学生ビザを発行しているスタジオもある。

・ E College

Continuing education 9月～12月

10回コース \$150

(3)日本 (福島)

・ F 健康づくり教室

国体の後で発足。月2回活動。会員20名。

公民館でボランティアのグループと高齢者が参加。講師は元体育教師。

・ G シェイプアップ教室

公民館主催の講座がサークルとして定着。月2

回活動。会員15名。公民館で一般主婦が参加。

講師は元体育教師。

・ H College

カリキュラムの1つとしてジャズダンス。学生

はスタジオに通って受講。講師はジャズダンス

スタジオ主宰者。

・ I College

カリキュラムの1つとしてジャズダンスやバレ

エ。学生は学内で受講。講師はジャズダンスス

タジオやバレエ教室の主宰者。

5. 結 論

観光やショービジネスが主要な産業の1つとなっている大都会と地方都市の違いはあるが、イギリスやアメリカでは、個人のニーズに合う開講形態が展開されており、自己実現の可能性を広げていける環境であるといえる。アメリカの各大学のパートタイム学生数は昼のフルタイム学生数を上回り、就職につながる資格取得や資質向上のための教育が真剣に行われている。勿論、日本のカルチャーセンターのような楽しみや生きがいを提供する機関もある。

わが国でも社会体育指導者が講師となったり、社会体育施設を利用して授業として単位を認定している学校も珍しくはないし、資格取得を目的とした専門学校も存在している。また、大学でも市民対象の公開講座が積極的に開講されている。しかし、さらにアメリカのコミュニティカレッジのように、一般市民よりの学習形態があってもいいのではないだろうか。